



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第31号

発行:2008年11月20日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

湘南泉病院 消化器内視鏡の 最近の話題 (UP TO DATE)

湘南泉病院 副院長 末盛 彰一



最近の消化器内視鏡の進歩は素晴らしいものがあります。内視鏡機器の開発と意欲的な医師による治療・診断の技術革新が相次いで報告されているのです。10月、都内で開催された消化器病学会週間(DDW)参加し、改めてそのエネルギーを実感してきました。診断面では、カプセル内視鏡(小腸)、ダブルバルーン小腸内視鏡、経鼻内視鏡があります。前2者は暗黒の臓器と言われた小腸の診断・治療を一気に進めることとなり、教科書を変える業績と世界的評価を受けています。また、経鼻内視鏡は、検査の苦痛を軽減させたことから上部消化管のスクリーニングにおける内視鏡検査の重要性を一層高めています。一方、治療面での進歩も負けてはいません。早期食道がん、早期胃がんにおいて粘膜下層切開剥離(ESD)が技術的にも理論的にも確立してきました。内視鏡用の小型ナイフで癌病変を粘膜下層ごと、切り剥がします。以前の粘膜切除と比較すると癌細胞の取り残しが非常に少なく、外科的切除に遜色ない成績が発表されていました。驚いたのはNOTESという内視鏡外科手術です。アメリカ、インドでは実際に行われているようです。経口的にスコープを胃内に挿入し、意図的に胃壁を切開し、腹腔内で胆嚢や虫垂を切除し、切除した臓器を経口的に取り出すそうです。日本でも学会主導でパイロットスタディが進んでいるようです。腹部に手術痕を残さないため注目されています。

さて、湘南泉病院においても地域に根差す急性期病院として内視鏡診断・治療の充実に努力しています。胃ろう造設術(児玉、長岡)はすでに神奈川県において有数の病院として評価されています。上部・下部内視鏡検査・治療(鈴木、末盛、長瀬、大石、麦倉)も年々その件数を増しております。さらに、特筆すべきは胆道系の疾患(総胆管結石、胆道癌、膵癌など)の内視鏡診断・治療が麦倉先生の参加で当院において可能となったことです。すでに多くの総胆管結石患者を治療され成果を上げています。また、消化器分野ではありませんが、高齢者の摂食・嚥下機能評価として嚥下内視鏡検査(VE)が注目されていますが、当院でも有志でユニットをつくり、隔月に数名検査し勉強会をしています。(鈴木、末盛、池島、池田)当たり前のことですが高齢者においては、栄養状態の悪さ、合併症の多さ、認知症などから外科的手術は困難なことが多いのが現実です。しかしながら、内視鏡治療は問題なくできたという症例はよく経験します。身体的侵襲の少ない内視鏡治療は、患者の高齢化と技術革新に後押しされますますます進歩し、その適応は拡大すると予想されます。湘南泉病院の内視鏡部門も患者のニーズにできる限り対応できるように一層の充実に努めたいと考えておりますので、皆様にもぜひご支援いただけますようお願い申し上げます。

平成20年11月18日(火)18時45分より横浜市旭区民文化センター サンハートにて第8回市民向け講座「認知症講演会」を開催しました。この講演会は、認知症に対する関心が高くなっていることもあり、会場定員300名のホールは数日のうちに予約でいっぱいになり当日は300名強のご家族の方々や施設職員の方で会場が溢れる状況でした。



講演会では、最初に76年にレビー小体型認知症の症例を初めて国際学会に報告、発見者として知られている横浜ほうゆう病院院長の小阪憲司先生が「認知症の現状と課題」と題した講演を行ないました。



この講演の中で小阪先生は認知症の原因：アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症の特徴、メカニズムを脳の画像を基にわかり易く説明され、認知症の早期発見・早期治療の課題では機能的な地域連

携体制の推進が焦点であり、地域連携の力が重要であることを述べられました。講演会の後に行なわれたシンポジウム「認知症の地域連携をめぐって」では、小阪先生が引き続き座長を務め、シンポジストの方々や会場の方々と熱心な議論が交わされました。

旭区医師会長 相澤一喜氏は、開業医として「かかりつけ医」「サポート医」の現状の問題、プライマリケア、身体管理についての役割、また、旭区の現状について認知症患者数、開業医数等を交えてのお話し。旭福祉保健センター 高齢者支援担当 係長 室山孝子氏は、旭区最新の認知症の現状と地域連携として、「どう相談につなげるか」「どう医療につ

シンポジスト紹介

横浜市旭区医師会 会長 相澤 一喜
 横浜市旭福祉保健センター 室山 孝子
 横浜市左近山地域ケアプラザ 橋口 敬
 家族 代表 中原 啓道
 横浜ほうゆう病院 副院長 日野 博昭
 横浜ほうゆう病院 看護部長 片瀬 克子



なげるか」「どう介護をやっていくか」の3点を問題提起。左近山地域ケアプラザ 橋口 敬氏は旭区内に8箇所ある地域包括支援センターの概要、役割、何でも相談できる機関である等。

家族 代表 中原啓道氏は、ご自分の経験から、「どこへ相談してよいのかわからなかった。詳しい方から、アドバイスをうけられるようにして欲しかった。」横浜ほうゆう病院 副院長 日野博昭氏は認知症専門病院 横浜ほうゆう病院の概要、昨年度の外来・入院患者の状況等の説明。横浜ほうゆう病院 看護部長 片瀬克子氏は、患者様はもちろん、ご家族も一緒に看護をしようと、各師長に徹底して努めている病院の体制等。

来場者の方とは、地域連携がうまくいっていないのはどうしてか。どうすればうまくいくか。認知症疾患医療センターへの期待等を議論し、いろいろなご意見をもらいました。

最後に今後、かかりつけ医(サポート医)から基幹病院(専門病院)へという地域連携のネットワークが必要になる為、地域の基幹病院として、認知症疾患医療センターを設置し、そして地域で役割分担・協力しながら認知症医療マップを作成していきたいと小阪先生のお話でした。

鵬友会では今後も少しでも皆様のお役に立てるように取り組んでいきますので、ご支援をお願いします。